

東日本大震災支援くしろネットワーク活動報告（女性班）

報告者 吉田 敦子

期間平成23年5月4日～5月8日

活動拠点：岩手県釜石地区

宿泊地：遠野市八幡地区コミュニティ消防センター（大広間男女相部屋）

5月4日

男性5名、女性2名一行7名が朝7時39分発のJRにて出発
乗り継ぎ5回を経て宿泊地である遠野市に18時46分到着。
遠野市ボランティアセンターへ立ち寄り後、宿泊施設にて荷物を置き入浴を兼ね
入浴施設確認・食材購入場所確認・帰宿舎・ミーティング・22時消灯

5月5日

5時30分起床 朝食準備

6時30分 朝食&後片付け

7時30分 釜石ボランティアセンターへ向け出発

8時30分 釜石ボランティアセンター受付

↓

男性・・・グラントホテルがれき撤去作業

女性・・・青空広場にて救援物資の支給係りを指示されるが少しでも

12時迄 大変な現場を体験したく、男性と同じ現場を望み変更してもらったが、
女性としての活動調査と言う事を忘れないよう注意を受ける。

《グラントホテル活動状況》

施設内は地震、津波などの被害が甚大でどこからどう手をつけて良いのか一瞬途方に暮れるほどの悲しさでした。ロビーと思われる場所は既にながれきを取り除かれていた形跡がありましたが、まだまだ手つかずという現状です。私達は厨房と思われる（ほど、あらゆるものが津波によって掻き混ぜられていた）場所のがれき撤去に取り掛かりました。1時間ほどして緊急災害連合と言うヘルメットを被った19名が加わり一挙に効率が良くなる。この緊急災害連合と言う組織に大変興味を持ちました。非常に手際が良く、道具も完備し、訓練されているという事です。私達も前半非常によいペースで作業がはかどっていたのですが、絡み合ったコードや流し台、鉄板等は手作業では無理な状況でそれなりの工具が必要であり、彼らは全て整えていました。何時起こるともしれない災害に備えこのように訓練された民間組織を釧路にも作りたいものだとおもいました。



13時～被災地視察

大槌～釜石～大船渡～陸前高田までの海外線沿いを視察したが行けども行けどもがれきの山が続き今回の地震の凄さに呆然とするのみでした。釜石の道を隔てての被害の違いや商店街の壊滅的な光景、大槌の焼けただれたがれきの山を前にして涙が止まらず、こんな過酷な事があってよいのだろうか和人間の非力さを痛感し、町が消えたと言われる陸前高田に至っては、がれき撤去が進んでいたのか町の面影が無く元の光景を知らない私にはその凄さを実感する事は出来なかったが、海と反対方向に目をやると生徒の多くが犠牲となった陸前高田高校の無残な校舎跡があり、そこで復旧作業に当たっていた自衛隊の皆さんが、校門に日の丸を立てていた事が胸を熱くし、今でも涙がこみ上げてきます。自衛隊の皆さん本当にご苦労様です。そしてありがとうございますと思わずにいられません。



釜石商店街



大槌町



陸前高田高校跡



陸前高田市街跡



5月6日

- 5時30分起床 朝食準備&男性大槌町方面とのことで昼食用のおにぎり用意
6時30分 朝食&後片付け
7時20分 男性陣遠野ボランティアセンターへ向け出発
7時40分 女性陣釜石ボランティアセンターへ向け出発
8時30分 釜石ボランティアセンターにて受付
避難所甲子(かし)小学校ボランティアを依頼される。業務内容は掃除、子供のお世話、昼食の配給等の指示書を貰う。(夕方までの配属予定)
9時 甲子小学校到着

《甲子小学校活動状況》

避難所派遣と言う事で様々な体験をしたいと思っていた私達は喜び勇んで現地に向かいました。然し、到着するや否や、関係者の今日はいらないのではという言葉に唖然とする。取り敢えず担当者の佐藤氏に面会し事情の説明を求める。たまたまこの日は学校があり子供達は学校へ行き、大人は出かけてしまったという事で残っていたのが大人3名と子供2名だけでした。そこに市の職員が3名と東京都から派遣されていた職員の方1名がいた状況です。掃除も済んでいて無し。昼食も人手はいらない中で取り敢えず金安さんは子供1名を相手に遊んであげ、吉田は避難所の内部の見学をしました。避難所からボランティアセンターへの連絡の不徹底で折角出向いている私達は時間を無駄に過ごしているようで残念に思い、市の職員の方にはその旨を伝えました。やっと見つけてくれた仕事は駐車場5台分の線引きでしたが、30分程度で済み避難所を後にし、新たな仕事を指示してもらうために釜石のボランティアセンターへ戻りました。活動らしい活動の出来なかった午前中でした。

甲子小学校避難所



段ボールの壁の内部



駐車場線引き



情報掲示板(法律、就職、イベント等)



支援物資(ダブつき気味?)



入学式が行われた



発信専用の無料電話



表札代わり?

- 1 1 時 3 0 分 釜石ボランティアセンター到着。甲子小学校での活動報告をし午後からの現場を紹介してもらい、早目の昼食を摂る。ここではボランティアの人達が食事をする場所が確保されていてお茶、コーヒー、カップ麺などが自由に頂けた事に驚きでした。
- 1 2 時 3 0 分 初日に言われた青空広場での支援物資の支給係りを指示され向かう。お昼休みのせいか係りの人も少なくこれと言った指示が出されないの、こちらから作業内容を質問する。全て無料配布で被災した時に住んでいた住所を書いてもらい被災地である事の確認が取れたら欲しい物をあげるということでした。商品の並べ替えや、衣料品の展示、区分けを手伝う。1 4 時から支給開始と言う事でしたが時間近くになると続々とボランティアの人が集まり、責任者らしき人は明らかにこんなに要らないという態度でした。私達はしっかりした活動をしたかったので他にやれる事はないのか仕事を探して欲しいと願い出ました。

紙おむつ、ミルク、トイレットペーパー等が多かった



中古品の衣料用品



- 1 4 時～ 無理を言って探してもらった仕事は倉庫内での生理用品の区分け作業。羽つき、羽なし、ナイト用他を一度自衛隊の人が区分けしているがそれが十分でない為、再度箱を開け整理して欲しいとの事。これこそ女性でなければ出来ない仕事でした。山積みになっている段ボールの中身を2時間しかない中で何処まで出来るか分からないけれど2人で夢中で作業しました。



様々な種類が混ざって入っていた。



- 1 6 時 あと一時間あるとほぼ完成と思われ最後までしたかったのですが、係りの人が1 6 時で終わってもらわなければ私が叱られますと言われ、渋々作業を中断し現場を離れました。大きな倉庫内は各地、各国からの支援物資で溢れていてもう物はいらぬのではと感じた一瞬でした。
- 1 6 時 3 0 分 釜石ボランティアセンターに立ち寄り、今日のような事があってはもったいないので明日、行くところと言うより行きたいところをお願いし予約を入れておきました。のぞみ病院と言う女性のボランティアを希望している現場で、掃除、食事のお手伝いが主な仕事です。
- 1 7 時 遠野市の宿泊施設へ向け帰路に就く。

5月7日

- 5時30分 起床、朝食準備、昼食用のおにぎり準備
6時20分 朝食&後片付け
7時20分 男性は遠野ボランティアセンターへ、女性は釜石ボランティアセンターへそれぞれ出発する。
8時30分 釜石・のぞみ病院へ到着

《のぞみ病院活動状況》

2階の総務へ行き仕事の内容と指示を受ける。

2階、3階の床の掃き掃除と拭き掃除。玄関2か所のハイター水の設置と各所床に置かれている靴ふき用タオルの交換とその汚れたタオルをハイターに漬け洗う。9時から11時までの2時間で行う事にな

ていましたので、汗をかきながらの作業でした。水道、ガスがまだ駄目で用意されていたタンクの水を利用しての作業です。



11時からは9階に設置された給食室へ行き夕食の準備のお手伝い。ここでは市の職員の方（女性）がともしっかりしていて、的確な指示を頂くことが出来ました。80名近くの避難者の食事の準備です。夕食のメニューはほうれん草のおひたし、なすの油いため、魚の缶詰で段ボール2箱のほうれん草のおひたし作り、なす・ピーマン・玉ねぎの乱切り、魚缶を開けバットに用意と言った作業で予定は15時30分までと言う事でした。途中お昼休みを1時間とりましたが予定より早く14時には終わってしまいました。最初私達が厨房に入ると今迄いた女性4人ほどが全員いなくなったのでどうしたのかと思っていたら、後に帰ってきて自宅の片付けに行っていたとの事。ここは釜石商店街のすぐ傍にある病院で津波の時、商店街の人達が避難してきてそのまま避難所になったとの事です。その人たちが班を決め食事、掃除等を手分けして行っていて、私達ボランティアの人が来てくれた時にやっと自宅に帰り片付ける事が出来ると言う事でした。目に涙を浮かべ、感謝の言葉を述べられた時には何とも言えず辛い気持ちになりました。被災者同士が寄り添い合い、助け合い生きている姿は私達に美しい心を教えて下さいました。ほんのひと時触れ合い別れを惜しんだのでした。また、市の職員の方のお話も追記させて頂きます。送られてきている物資は比較的同じ様なものが多くたんぱく質になる、肉、お魚が食べられないのが辛い。大きな冷蔵庫を今お願いしているが何時になるか分からないので当分この状態が続くのでは？とのことでした。たったの一回でも良いから届けてあげたいと願う私でした。

(一仕事終えて)

(被災者の皆さんと)



- 1 4時30分 のぞみ病院を後にした私達はボランティアセンターへその報告に行きました。本日はこれでもう良いですと言われましたが、16時までにはまだ時間があり勿体ないとの思いから更に何か仕事はありませんかと申し出、災害対策本部の入っているシープラザの1, 2階の掃き掃除を依頼されました。掃くだけの作業でしたが、これが結構最後にきつかったのです。特に階段掃除は泥が掃き出せなく、時間がかかる作業でした。仮設住宅の入居希望者の申し込み手続きの窓口、各避難者向けの対応窓口などで人の出入りも多く、被災地の混乱が伝わってくる状況の中、少しでも綺麗にしてあげたいと言う思いで作業しましたが、清掃も行き届いていないことが伺われる綿埃りと泥をかき集め私自身の清掃業者としての経験が生かされた事に感謝しました。
- 16時 釜石ボランティアセンターに終了報告
3日間通い、すっかり釧路の吉田、金安の名前と顔を憶えてもらった事はとても嬉しかったです。僅か3日間でこの地を去る事に心を残しセンターの皆さんとお別れました。

5月8日

- 5時30分起床 朝食準備
6時30分 朝食後片付け
7時 全員で宿泊施設の掃除
男性の皆さんが大変協力的で見ると綺麗になり完了
施設管理者吉田さんの点検を受け早目に遠野駅へ向け出発
10時12分 遠野駅出発 5日間無事に役目を果たし安堵の思いで釧路への帰路に就く。
21時43分 釧路駅到着

以上、5日間の活動を報告致します。

被災地を訪れてみたい、何かをしたいと願っていましたが思っているだけでなかなか行動に移すことが出来ませんでした。今回このような機会を与えて下さり本当にありがとうございました。日本の悲劇であるこの大災害の時に生きている者として、何が出来るのか？しっかり考える事が出来ます。また女性として出来る事はボランティアセンターに申し込まれている事ばかりでなく、各被災者の家庭の中にいくらかもあるのではないのでしょうか？今は表に見えている部分だけですが、例えば、のぞみ病院に行った時のように私達がいる事で非難されている人達は自分の家に帰り、後片付けが出来ると言っていました。その各家庭の後片付けのお手伝いなども出来ますし、きめ細やかなお手伝いはまだまだ必要と感じました。また、私は自衛隊の方々のご苦勞に深く敬意を払い、災害復旧に過酷な労働を強いられている皆さんの食事が十分でない事を聴き、食事を作ってあげたいと言う思いにも駆られました。何れにしても被災地は2カ月たった今も混乱の中にいます。ボランティアセンターの運営もそうですが、横の連絡が取りきれしていない。ボランティアの助けを求めている人は大勢いるのに、網羅されていない為、ボランティアの申し込みを打ち切る等の状況を見て、もっとしっかりと思う反面、皆が被災者なので混乱している事を思えば、そこのお手伝いをさせて欲しいとも思いました。一日も早く復旧するために私達のような民間人が力を寄せ合うことが大きな力になる事を実感し、くしろネットワークを立ち上げて下さった皆様に心から敬意を表したいと思います。本当にありがとうございました。